

生涯学習概論 I					単位	2			
授業コード	17000	科目ナンバリング	540Z0-1000-x2	期間	2021年度 第1期				
担当者	西井 麻美								
授業形態	講義・演習								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに ○ (複数可)									
●本授業の概要									
生涯学習社会の構築をめざした教育の取り組みや政策の展開について理解を深めるために、まず、これまでの生涯学習の流れや理論を把握し、次に、生涯学習や社会教育に関する法律や施策について知る。さらに、地域や学校、家庭と連携した教育実践、社会教育の専門的職員の役割についても基礎的な理解を図る。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・ 表現力	主体性		
1	1. 生涯学習社会の構築をめざす施策の基礎となっている教育論や法規について説明できる。								
2	2. 生涯学習や社会教育に係わって、展開されている実践の内容や専門的職員の役割について、詳しく記述できる。								
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	課題提出 50%				1	2			
2	試験 (あるいはレポート提出) 50%				1	2			
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1 オリエンテーション									
2 今日の社会動向から生じる生涯学習と社会教育の課題									
3 生涯学習・生涯教育論の原理と展開									
4 生涯学習社会論 (家庭教育、学校教育、社会教育の役割と連携)									
5 生涯学習社会・知の循環型社会の構築にむけた取り組み									
6 我が国の社会教育の異議と社会教育行政									
7 国際社会における生涯学習の取り組み									
8 我が国の生涯学習・社会教育関連法規および生涯学習振興政策について									
9 生涯学習施設・社会教育施設									
10 社会教育専門職員の役割と求められる資質・能力									
11 自治体の生涯学習・社会教育の取り組み									
12 身近な生涯学習実践を知ろう									
13 学習支援のための学習情報提供・学習相談と生涯学習成果の認定									
14 自分にとっての生涯学習を考える									
15 まとめ									

●試験
定期試験（筆記試験または課題提出）
●試験のフィードバックの方法
留意点について解説する。（資料提示等）
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
授業外学習を積極的にすすめるため、学外の生涯学習・社会教育活動について調べて内容をまとめること。（予習約1時間、復習約1時間）
●必携書（教科書販売）
<必携書> 『よくわかる生涯学習（改訂版）』，香川正弘・鈴木真理・佐々木英和編，ミネルヴァ書房
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
<参考書等> 授業中に指示する。
●オフィスアワー
木曜日9.10限（授業担当週については、授業中に指示する。）
●連絡先
mnishii@m.ndsu.ac.jp
●留意事項
新型コロナウイルス対応についての大学からの指示により、第1回オリエンテーションは、対面授業で行い、それ以降は、オンデマンド（マナパフォリオ利用）を主とします。なお、対面授業を行う時は、事前にマナパフォリオで通知します。 (3月31日追記)

生涯学習概論ⅠⅠ					単位	2
授業コード	17010	科目ナンバリング	540Z0-1000-x2	期間	2021年度 第2期	
担当者	西井 麻美					
授業形態	講義・演習					
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔	
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）						
●本授業の概要						
国際社会の動向をふまえながら、生涯学習に関する施策・取り組みについて考察する。近年、UNESCOやOECDなどの国際機関やサミットなど様々な国際会議において、生涯学習をめぐる議論や施策が展開されている。先進国のみならず、発展途上国や中進国における課題にも目をむけながら、総合的に生涯学習について考える。						
●到達目標			知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	
1	生涯学習の本質について説明し記述することができる。					
2	持続可能な社会について主権者として人権の基礎的判断ができる。					
3	生涯学習の国内外の動向について解説できる。					
4						
5						
●成績評価の基準			1	2	3	4
1	受講態度・発表（試験）50%		1	2		
2	課題提出50%				3	
3						
4						
5						
●実務経験のある教員による科目						
●実務経験の授業への活用方法						
●日本語以外の授業への活用方法						
●授業予定一覧						
1 オリエンテーション						
2 持続可能な社会への志向						
3 国際社会における持続発展教育の提案と展開						
4 日本における持続発展教育政策						
5 グローバリゼーションと生涯学習						
6 異文化理解の生涯学習						
7 社会課題を捉える目を育てる：文化リテラシー						
8 持続可能な社会における人権教育						
9 様々なつながりから生涯学習を考える						
10 環境と自分とのつながり						
11 岡山での国際的教育活動						
12 生涯学習政策の動向						
13 若者の生涯学習を考える（1）現状と課題						
14 〃 （2）大学生にとっての生涯学習						
15 まとめ						

●試験
定期試験（筆記試験または課題提出）
●試験のフィードバックの方法
留意点について解説する。（資料提示等）
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
参考事例などを随時紹介するので、授業外学習として、それらについてさらに調べて要点をまとめること。（約1時間）、関連する文献にあたり、理解したトピックスをまとめること。（約1時間）
●必携書（教科書販売）
<必携書> 『E S Dがグローバル社会の未来を拓く -SDG sの実現をめざして』西井麻美・池田満之・治部真里・白砂伸夫編著、ミネルバ書房、2020年
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
<参考書等> 授業中に逐次指示する
●オフィスアワー
木曜9.10限（授業担当週については、授業中に指示する。）
●連絡先
mnishii@m.ndsu.ac.jp
●留意事項
新型コロナウイルス対応についての大学からの指示により、第1回オリエンテーションは、対面授業で行い、それ以降は、オンデマンド（マナバフォリオ利用）を主とします。なお、対面授業を行う時は、事前にマナバフォリオで通知します。（3月31日追記）

生涯学習支援論I					単位	2			
授業コード	17060	科目ナンバリング	540Z0-1000-x2	期間	2021年度 第1期				
担当者	原 明子								
授業形態	講義・演習								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
本授業では、持続可能な社会を築くために必要な生涯学習の考え方にに基づき、学習者の多様な特性に応じた学習支援について学びます。学習支援の理論だけでなく現場職員の話や聞くなどして実際を知るとともに、授業を通して参加型学習とファシリテーション技法を体験的に学び、実践できる基礎的な力をつけます。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	1. 学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び実際の現場を経験し、多様な学習者の特性に応じた学習支援のあり方について自分の考えを述べるができる。				○	○	○		
2	2. 効果的な学習支援方法としての参加型学習プログラムの編成およびファシリテーション技法の基礎を習得し、学習プログラムを企画することができる。				○	○	○		
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	振り返りシート、レポートの記述 50%				1	2			
2	授業への参加度、発表内容 50%				1	2			
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目					実務あり				
●実務経験の授業への活用方法									
岡山市のESD専従職員、ESDコーディネーターとして、学校や公民館、市民団体、企業など多様な主体の学びと実践をサポートした経験を生かして、持続可能な社会づくりの視点を取り入れた生涯学習の実践事例とその支援のあり方を紹介する。参加体験型学習の手法で授業を行い、受講者が参加型学習を体験、実習できるようにする。									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1	オリエンテーション、持続可能な社会づくりにおける生涯学習								
2	学習支援の実際（公民館訪問）								
3	学習支援の考え方（学習者の多様な特性）								
4	学習支援の実際（生涯学習体験報告）								
5	学習支援の考え方（学習支援者の役割）								
6	学習支援に必要な技能								
7	学習プログラムのしくみと構造								
8	学習プログラムの企画・立案								
9	参加型学習の進め方								
10	ワークショップとは								
11	ファシリテーションとは								
12	参加型学習とファシリテーションの実際								
13	参加型学習とファシリテーション演習（発表前半）								

14 参加型学習とファシリテーション演習（発表後半）

15 ふりかえり、まとめ、レポート作成

●試験

学習プログラム企画発表とレポート

●試験のフィードバックの方法

発表した学習プログラムについて学外の実践者を交えて振り返る。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

集中講義のため途中で訪問する時間がとれないと思うので、初回の授業までに、どこでもよいので生涯学習が行われている場所を訪問し、どのような施設でどのような人が何のために利用していたか、他の人に紹介できるようにしておいてください。

次週に予定されているテーマについて、各自が調べたり考えたりしたことを授業でシェアできるようにしておくこと。（約1時間）

●必携書（教科書販売）

使用しない

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

なし

●オフィスアワー

質問は授業後またはメールで受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）

●連絡先

s8325@m.ndsu.ac.jp

080-3873-5626

●留意事項

生涯学習支援論II					単位	2			
授業コード	17070	科目ナンバリング	540Z0-2000-x2	期間	2021年度 第1期				
担当者	白砂 伸夫								
授業形態	講義・演習								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
本授業は、生涯学習について自分の学習経験と関連付けながら、教育・学習を幅広い視点から捉え、学生の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能を習得することを目指す。具体的には学外授業、ワークショップやインプロなどの参加型学習やファシリテーションの技法について体験を通して学び、学習プログラムを作成する活動を通して実践的に学ぶ場を提供する。また、グループディスカッション、プレゼンテーション等を組み合わせた授業展開をするため、学生の主体的参加が必要である。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	生涯学習支に関する基礎的な知識を身につける。				○	○			
2	プログラム作成や討論など技法の基礎知識を修得する。				○	○			
3	生涯学習を実践を通して捉えるための力を養う。				○		○		
4	生涯学習についての学問的な成果を、コミュニケーション論的な観点から論ずることができる。				○		○		
5	生涯学習に関する興味・関心をもって積極的に実習に参加できる。				○		○		
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	積極的な参加							4	5
2	調査報告書の作成					2			
3	発表資料の作成				1		3		
4	レポート提出					2			
5	授業態度								5
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
第1回:ガイダンス：授業のねらいと概要、シラバスの説明									
第2回:生涯学習とは何か,自分の学習経験に照らし合わせ理解する.									
第3回:地域社会における生涯学習活動									
第4回:事例研究：生涯学習とまちづくり：学外授業のためのチームビルディング									
第5回:学外授業1:地域分析によるまちの分析									
第6回:学外授業2:地域調査による地域の特性を学ぶ									
第7回:学外授業3:ヒヤリング調査によるコミュニケーション									
第8回:学外授業のまとめ									
第9回:分析1：分析手法の検討									
第10回:分析2：調査内容の分析									
第11回:分析3：分析のまとめ									
第12回:ディスカッション									
第13回:レポートの作成									
第14回:レポートの作成									
第15回:プレゼンテーション									

●試験
レポート提出
●試験のフィードバックの方法
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
シラバスに沿って、予習学習を1時間行う。 授業後に復習を1時間行う。
●必携書（教科書販売）
適宜、必要な資料を配布
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
適宜指示する。
●オフィスアワー
ランチタイムに行く。
●連絡先
artfusion4@me.com
●留意事項
遅刻、欠席はしないこと。 遅刻、欠席の場合は必ず事前に連絡を入れること。



社会教育経営論I					単位	2			
授業コード	17100	科目ナンバリング	540Z0-3000-x2	期間	2021年度 第1期				
担当者	松橋 義樹								
授業形態	講義・演習								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに ○ (複数可)									
●本授業の概要									
社会教育主事としての職務及び求められる資質・能力を踏まえ、「学び」の成果を戦略的な視点から、様々な主体と連携・協働を図りながら地域課題解決・まちづくり支援及び地域学校協働等の活動に繋げていくため、講義及び演習(グループワーク及びプレゼンテーション)を通して必要な知識及び技術の習得を図ります。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・ 表現力	主体性		
1	社会教育行政と地域活性化の関連について、複数の観点から説明することができる。					○			
2	社会教育における地域人材の育成について、具体的事例をもとにプログラムを企画することができる。				○	○	○		
3	社会教育を推進する地域ネットワークの形成について、地域の特性を踏まえながらそのプロセスを検討することができる。					○	○		
4	社会教育施設の経営戦略について、施設の種類に応じた戦略のポイントを説明することができる。				○	○			
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	第5回の授業で提出する演習成果物(25%)				1	2			
2	第10回の授業で提出する演習成果物(25%)				3				
3	第15回の授業で提出する演習成果物(50%)				1	2	3	4	
4									
5									
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
第1回 地域活性化に資する社会教育の役割									
第2回 社会教育行政による地域活性化の取組									
第3回 社会教育における地域人材育成の視点									
第4回 社会教育におけるコーディネーターの役割									
第5回 社会教育における地域人材育成の実際									
第6回 社会教育を推進する地域ネットワークの視点									
第7回 社会教育行政とNPO・企業等との連携・協働									
第8回 家庭・学校・地域の連携・協働									
第9回 コミュニティ・スクールの実際									
第10回 地域学校協働活動の実際									
第11回 社会教育施設経営の視点									
第12回 公民館・生涯学習センター等の経営									
第13回 図書館・博物館・青少年教育施設等の経営									
第14回 社会教育施設のネットワークの実際									
第15回 社会教育行政の戦略的経営のこれから									

<b>●試験</b>
演習における成果物（第5回・第10回・第15回の授業時にそれぞれ提出）の内容で評価します。 評価の割合は、第5回及び第10回の授業時の成果物：各25%、第15回の授業時の成果物：50%とします。
<b>●試験のフィードバックの方法</b>
演習成果物について、良かった点や改善すべき点をプレゼンテーション時にコメントします。
<b>●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容</b>
・予習として、事前に配布する資料の論点及び疑問点を整理してください。（各回につき2時間分） ・復習として、授業の内容が自身の日常生活及び様々な学習活動とどのように関連している（今後関連すると考えられる）のか整理してください。（各回につき2時間分）
<b>●必携書（教科書販売）</b>
教科書は使用しません。
<b>●必携書・参考書等（教科書販売以外）</b>
<参考書> 参考書は授業時に紹介します。
<b>●オフィスアワー</b>
質問等は授業後またはEメールで受け付けます。
<b>●連絡先</b>
greena.live1128@gmail.com
<b>●留意事項</b>
本科目は、9月集中講義日のうち3日間連続で開講されます。

社会教育経営論II					単位	2			
授業コード	17110	科目ナンバリング	540Z0-3000-x2	期間	2021年度 第1期				
担当者	濱西 栄司								
授業形態	講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに○ (複数可)									
●本授業の概要									
●オンラインですので履修者数に上限はありません。									
●今年度は、遠隔会議システム (Google MeetあるいはZoom)を用いてオンラインで行います。									
●授業開始前までに教科書を購入しておいてください (やむを得ず間に合わなかった場合はEメールをください)。									
~~~~~以下は従来通り~~~~~									
社会教育行政と地域活性化 (特に、市民協働、住民自治と社会教育行政の連携のあり方)、社会教育行政の経営戦略 (社会教育計画策定、社会教育調査、事業評価)、学習課題の把握と広報戦略、学習成果の評価と活用について、講義及び演習を通して理解する。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	社会教育に関する地域課題の把握、計画策定、事業立案・実施、成果活用について概要を説明できる。				○		○		
2	地域における多様な主体と連携しつつ、社会教育を展開する際の注意点や課題、利点について説明できる。					○	○		
3	自らの関心を具体的な社会教育プランにすることができる。						○		
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	授業への取り組み：40%				1		3		
2	期末レポート：60%					2	3		
3									
4									
5									
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
1. 社会教育行政と地域活性化：地域									
2. 社会教育行政と地域活性化：協働									
3. 社会教育行政の経営戦略：行政									
4. 社会教育行政の経営戦略：経営									
5. 社会教育の現状把握と広報戦略：調査									
6. 社会教育の現状把握と広報戦略：課題									
7. 社会教育における地域人材の育成：人材									
8. 社会教育における地域人材の育成：コーディネーター									
9. 学習成果の評価と活用の実際：評価									
10. 学習成果の評価と活用の実際：成果									
11. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成：コミュニティ									
12. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成：営利・非営利									

13. 社会教育施設の経営戦略：経営  
 14. 社会教育施設の経営戦略：手法  
 15. まとめ

●試験

期末レポート

●試験のフィードバックの方法

マナバフォリオまたは遠隔会議システムでおこなう。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

（予習）必携のテキストを用いて授業の予習を行い，また論文・新聞・Web等から関連情報も収集し，それらの成果や内容をGoogle Classroomのスレッドに記して提出すること（各回2-3時間程度）。

●必携書（教科書販売）

浅井 経子編、2020『社会教育経営論』ぎょうせい ISBN-10 : 4324108056

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

授業で適宜、紹介する

●オフィスアワー

木曜の12時30分～13時。臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること。

オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。

●連絡先

hamanishi@post.ndsu.ac.jp

●留意事項

社会教育の現場に働く方を、授業にゲストとしてお招きする可能性がある。

社会教育実践演習					単位	4			
授業コード	17130	科目ナンバリング	540Z0-3400-x4	期間	2021年度 第1期～第2期				
担当者	西井 麻美		Jason Williams、上田 恭嗣、池田 満之						
授業形態	演習・実習・講義								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）	F		○		○				
●本授業の概要									
グローバルな視点を持つとともに地域の実情に即した探求をめざし、地域で取り組まれている活動や社会教育に係る事業などを調べ、実際に地域に向いて視察することを通して、具体的な地域課題等を題材とした社会教育事業の立案等に向けた演習を行う。さらに、社会教育施設等における実習を行う。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	グローバルな社会の動向を理解した上で学習活動のあり方を検討することができる。								
2	学習課題に結びついている地域課題・生活課題について地域の実情に応じて理解することができる。								
3	社会教育主事の職務を遂行するにあたり求められる実践的資質および能力の基礎を培うことができる。								
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	講義に関するレポート 20%				1	2			
2	視察研修に関するレポート課題 30%					2	3		
3	演習・実習に基づくレポート 30%					2	3		
4	グループ調査研究発表 20%				1	2	3		
5									
●実務経験のある教員による科目			実務あり						
●実務経験の授業への活用方法									
<p>(池田) 岡山ユネスコ協会理事として25年以上、環境カウンセラーとして20年以上、公民館を事務局とした岡山市京山地区ESD推進協議会会長として15年以上、社会教育施設で社会教育主事等と社会教育に取り組んできた実務経験を活かし、現場で社会教育主事に必要な実務上の知識とスキルの伝授と体験指導を行います。</p> <p>現場で使えるプランニング力、コーディネート力、ファシリテート力、そして総合的なマネジメント力が実習という現場体験の中で、受講生に身につくような実習指導とサポートを実務経験を活かして行います。</p> <p>特に気づきを促し、受講生が主体的に学び力をつけていく教育を行います。</p> <p>(上田) 行政職に携わっていた経歴があり、岡山市の景観まちづくり・歴史的なまちづくりに関する基準づくり等を実務として対応した経験がある。学生に快適なまちづくり・魅力ある街づくり等について、実務経験を通して必要性和大切さを伝える。</p>									
●日本語以外の授業への活用方法			英語 (Williams)						
●授業予定一覧									
第1回講義今日の社会と社会教育・生涯学習 (オリエンテーション) (西井・上田・池田)									
第2回演習持続可能な社会に向けた社会教育・生涯学習 (西井)									
第3回講義Internationalization of Japanese Society (ジェイソン・ウィリアムズ)									
第4回講義Internationalization and Education・Educational Issues (ジェイソン・ウィリアムズ)									
第5回講義倉敷における民意によるまちづくり・建物づくり (上田)									
第6回講義倉敷における地域の伝統を活かしたまちづくり (上田)									
第7回演習倉敷市美観地区における建物づくりの現地視察研修 (上田)									
第8回演習倉敷市美観地区における伝統的まちづくりの現地視察研修 (上田)									
第9回講義・演習資料収集について (レファレンスについて) (西井)									

- 第10回講義Internationalization and Societal Issues (ジェイソン・ウィリアムズ)  
 第11回講義Internationalization and Societal Support (ジェイソン・ウィリアムズ)  
 第12回実習岡山市内の公民館での実習のためのオリエンテーション(池田)  
 第13回実習公民館での実習に必要な基礎知識とスキルを学ぶ(池田)  
 第14回実習公民館で社会教育主事が行う社会教育のプランニングの現場実習(池田)  
 第15回実習公民館で社会教育主事が行う企画会合のコーディネートの現場実習(池田)  
 第16回実習公民館で社会教育主事が行う企画会合のファシリテートの現場実習(池田)  
 第17回実習公民館での社会教育事業の企画のまとめと準備に向けた現場実習(池田)  
 第18回実習公民館での社会教育事業の準備会議の進行に関する現場実習(池田)  
 第19回実習公民館での社会教育事業の準備会議のとりまとめに関する現場実習(池田)  
 第20回実習公民館での社会教育事業の実施に必要な資料作成等に関する現場実習(池田)  
 第21回実習公民館での社会教育事業の開始前の準備に関する現場実習(池田)  
 第22回実習公民館での社会教育事業本番における社会教育主事の役割の実習(前半)(池田)  
 第23回実習公民館での社会教育事業本番における社会教育主事の役割の実習(後半)(池田)  
 第24回実習公民館での社会教育事業の実施後の処理に関する現場実習(池田)  
 第25回実習公民館での実習を現場の社会教育主事との対話でふりかえる(池田)  
 第26回実習公民館での実習から学び得た社会教育主事の職務についての総括(池田)  
 第27回 講義 2期オリエンテーション(西井・上田) 岡山市の伝統的住まいづくりの手法―陣屋町足守から学ぶこと―(上田)  
 第28回講義岡山市・高梁市等における景観まちづくりの意義(上田)  
 第29回演習岡山市中心市街地における景観まちづくりの現地視察研修(上田)  
 第30回演習岡山市中心市街地における近現代建築の保存活用視察研修(上田)  
 第31回講義・演習視察研修のまとめ(上田)  
 第32回演習グループ調査研究発表の準備1:グループ討議(西井)  
 第33回演習グループ調査研究発表の準備2:スライド作成(西井)  
 第34回演習グループ調査研究発表の準備3:レジュメ作成(西井)  
 第35回演習グループ調査研究発表1:1~4グループ(西井)  
 第36回演習グループ調査研究発表2:3~4グループ(西井)  
 第37回演習グループ調査研究発表3:5~6グループ(西井)  
 第38回演習まとめ(西井)

#### ●試験

レポート、グループ発表

#### ●試験のフィードバックの方法

留意点について解説する(資料提示等)。

#### ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容

参考図書・資料を各自で読んで内容をまとめること。(予習約1時間、復習約1時間)

#### ●必携書(教科書販売)

『教育の理念・歴史』, 田中智志・橋本美保(監修・編著), 一藝社

#### ●必携書・参考書等(教科書販売以外)

『大原美術館の誕生』上田恭嗣著 山陽新聞社 2012年

『倉敷を見つめる、日本近代の遺産 有隣荘』学術監修上田恭嗣 大原美術館 2019年(第二版)

グローバル社会の未来を拓く力 E S D -SDG s (持続可能な開発目標) 実現をめざして』西井麻美・池田満之・治部眞里・白砂伸夫編著、ミネルバ書房、2020年

#### ●オフィスアワー

授業終了時に教室で質問等を受け付ける。

#### ●連絡先

Williams: williams@m.ndsu.ac.jp

西井: mnishii@m.ndsu.ac.jp

池田: ikd@mxt.mesh.ne.jp

## ●留意事項

実習1単位（池田担当）が含まれます。

西井担当での講義は、原則オンデマンド（マナバフォリオ利用）とします。また、グループ調査研究発表は、新型コロナウイルス対応についての大学からの指示等により、単独調査発表に変更する場合があります。変更がある場合は、事前にマナバフォリオで通知します。（3月31日変更・追記あり）

地域創生論				単位	2			
授業コード	17150	科目ナンバリング	540Z0-1234-x2	期間	2021年度 第2期			
担当者	池田 満之							
授業形態	講義・演習							
授業形式	対面	リアルタイム遠隔	オンデマンド遠隔					
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）		○						
●本授業の概要								
<p>講師が実際に取り組んできた社会教育からの地域創生の事例など、国内外の代表的な事例を分析・考察し、そこから社会教育主事に求められる地域創生に関する必要な知識と技能を学んでいただく。学習成果（効果）を高めるために、この授業では、受講生のアクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）を重視した演習をメインにして行う。学びの手順は、はじめに全体的なイメージを掴んだ上で、総論から各論へと視点を落とし込んでいくことで、より体系的な深い学びにつなげていく。また、学修したことを活かして実際に地域創生の取り組みを立案・発表（プレゼン）し、それを受講生でさらに学び合って、必要な知識と技能の修得を補完する。最後に、この科目で修得できた知識と技能をレポートにまとめることで、修得した知識と技能の定着を図り、授業を完了する。</p>								
●到達目標				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	<p>社会教育主事には、学習者の地域社会への参画意欲を喚起して、学習者の学習成果を地域課題解決やまちづくり、地域学校協働活動等につなげていくことにより、人づくりや地域づくりに中核的な役割を担うことができるよう、持続可能な地域社会の担い手・創り手を育む（ESD）ことも重要な役割として求められることから、特にこの科目では「地域創生」という視点で、社会教育主事の職務を適確に遂行し得る基礎的な資質・能力の養成を図る。到達目標は、「社会教育主事に求められる地域創生に関する必要な知識と技能を修得した結果、持続可能な地域社会の担い手・創り手として、公民館等の社会教育主事が職務を遂行する地域の現場で、地域創生の取り組みを立案・実行することができる。」こととする。</p>			○	○	○		
2								
3								
4								
5								
●成績評価の基準				1	2	3	4	5
1	授業態度・演習の成果物・リアクションペーパー（50%）			1				
2	期末レポート（授業総括レポート）（50%）			1				
3								
4								
5								
●実務経験のある教員による科目			実務あり					
●実務経験の授業への活用方法								
岡山ユネスコ協会理事として25年以上、環境カウンセラーとして20年以上、公民館を事務局とした岡山市京山地区ESD推進協議会会長として15年以上、社会教育施設を拠点に地域創生に取り組んできた実務経験を活かし、地域創生の現場で社会教育主事に必要な実務上の知識とスキルの伝授と指導を行う。								
●日本語以外の授業への活用方法								
●授業予定一覧								
第1回（講義）オリエンテーション、地域創生とは								
第2回（講義）地域創生の国内外の代表的な事例から全体のイメージを掴む								
第3回（演習）地域創生についての初期対話（わかったこと、わからないこと）								
第4回（講義）（総論）本大学のある京山地区の地域創生全般を学ぶ								



- 第5回（演習）（総論）本大学のある京山地区の地域創生全般を考察する  
 第6回（講義）（各論）京山地区「地域の絆プロジェクト」による地域創生を学ぶ  
 第7回（演習）（各論）京山地区「地域の絆プロジェクト」による地域創生を考察する  
 第8回（講義）（各論）京山地区「緑と水の道プロジェクト」による地域創生を学ぶ  
 第9回（演習）（各論）京山地区「緑と水の道プロジェクト」による地域創生を考察する  
 第10回（演習）地域創生についての中間対話（わかったこと、わからないこと）  
 第11回（演習）本大学も含めた京山地区での新しい地域創生の取り組みを立案する  
 第12回（演習）立案した企画の発表とフィードバックによる考察  
 第13回（演習）地域創生のための広報戦略を考察する  
 第14回（演習）地域創生についての最終討論（わかったこと、わからないこと）  
 第15回（講義）まとめ（全体のふりかえり総括）

#### ●試験

各回の提出レポート（リアクションペーパー）をもって試験に代える。特に、15回目の授業で出してもらう授業総括レポートを重視する（50%）。授業総括レポートには、この授業で自分は何をどう修得し、今後どう活かしていきたいかを記述してもらう。

#### ●試験のフィードバックの方法

16週目に、提出してもらった授業総括レポート等の結果をもとにフィードバックする。

#### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること（約2時間）。復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ（記録）等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく（探究する）こと（約2時間）。

#### ●必携書（教科書販売）

使用しない。

#### ●必携書・参考書等（教科書販売以外）

必要に応じて適宜、授業の中またはManaba folioの掲示板等において提示する。

#### ●オフィスアワー

質問は随時、電子メールで受け付ける（メールアドレス…ikd@mxt.mesh.ne.jp）。

#### ●連絡先

メールアドレス…ikd@mxt.mesh.ne.jp

#### ●留意事項

授業は、ZOOMを用いたリアルタイム型で行う。また、授業は録画も行うので、欠席した時や通信状況が悪くうまくリアルタイム授業に入れなかった時は、録画した授業を見てレポート（リアクションペーパー）を書いて出してもらう。